

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 教授 ・ 木野 龍太郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 経営学、授与機関 立命館大学、授与年月 1999.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

生産管理論 I (2) 3年生担当

② 内容・ねらい

モノづくりの技術(生産技術)のなかの製造技術を取り扱い、モノづくりの歴史的な流れを概説したうえで、トヨタ生産方式に代表されるような、日本の製造技術の特徴について講義を行う。管理手法そのものだけでなく、日本企業の持つ競争力と、それを支える技術という側面に着目して、進めていっている。モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、そして日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、さらに日本の高品質なモノづくりの土台となっている品質管理手法について学ぶことで、日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉などについて、理解を深めることを目標としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 工学的知識をあまり持たない学生であっても理解できるように、なるべく難しい専門用語を使うことは避けたい。図表や色分けを活用した丁寧な板書を心がけ、復習がやりやすいようにしている。
2. 基本的な事項をきちんと理解できるように内容を絞り込んだうえで、講義の復習を促すため、授業の最初に毎回の小テストを実施し、単元ごとに提出課題を課すことで、知識の定着を図っている。これらの結果は出欠確認を兼ねるとともに、平常点として成績に反映させていることもあり、学生の出席率は高く遅刻も少ない。また、出席者からは講義の復習になり、理解が深まる、といった肯定的な感想が出されている。
3. 授業の内容をサポートする形でビデオを積極的に活用し、講義内容と関わらせながら解説を行うことで、内容の理解を深める取り組みを行っている。また、必ず感想文を書かせて内容の定着を図るとともに、その内容を授業にフィードバックすることも行っている。
4. 2.の小テスト及び確認テスト、3.のビデオ感想文においては、学生の意見を取り込むとともに、質問には電子メールを使って回答するなどによって、双方向的な講義を心がけており、一方向的な講義にならないようにしている。
5. 実際の自動車を製造する工場見学を行い、実際の現場を見る機会についても提供している。例年実施しているトヨタ自動車への工場見学には多くの履修学生が参加し、実際のトヨタ生産方式の取り組みを目の前で見て、製品にも触れることで、講義で学んだことをより深く理解することにつながっている。
6. 製造企業の経営者や若手社員(本学卒業生)をゲストスピーカーとして最終講義にお招きし、会社概要やその会社の取り組みに加えて、実際にどのような仕事をしているのかについてもお話頂くことで、経営学の勉強だけでなく将来の進路を考えるうえでも役立つようにしている。
7. 福井県は特長ある技術を持った製造企業が多く、そうした企業が自動車や家電などの技術を支えていることから、それらを講義内容と関わらせながら、福井県内企業の紹介なども行っている。その結果、学生が福井県内の製造企業に関心を持ち、紹介した企業に就職している例も見られている。
8. 講義内容が現実の社会とどのように関わっているのかを、学生が理解しやすくするために、しばしば新聞記事などを資料として配布し、理解をさらに深められるようにするとともに、学生が新聞をあまり読んでいないという現状があるので、資料を配付し説明することで、新聞を読んで積極的に知識を吸収することを促している。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 生産管理論Ⅱ (2) 3年生担当</p>
<p>② 内容・ねらい 「生産管理論Ⅰ」で学んだ製造技術に関する知識を踏まえて、本講義では製品技術を主に取り扱い、日本の製造企業における研究開発体制の特徴と、サプライヤー (資材・部品供給会社) との企業間関係の態様、そして製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて学ぶ。日本のモノづくりにおける製品開発・購買管理についての知識を深め、それが製造企業の競争力とどのように関わっているのか、またモノづくりの土台ともいえる人事管理・人材育成について学ぶことで、「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」とあわせて、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることを目標とする。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な進め方は「生産管理論Ⅰ」と同じだが、主な受講生である3年生が就職活動の直前であることもあり、特に福井県内において盛んな製造業への就職活動を行う際に、知識として役立つ内容を盛り込むことで、学生の進路選択に役立たせるとともに、学習意欲の向上も図っている。 2. 一昨年より福井県内のモノづくり企業の方をゲストスピーカーにお招きして、実際のモノづくりについてお話頂いた。講義で学んだことと実践とがどのように関わっているかについて学ぶことが出来て、学生にも好評であった。また、ゲストスピーカーが所属する企業は、一般の学生にはなかなか馴染がない企業であることから、採用活動に関する積極的なアピールとして活用することが出来て、双方にメリットがある取り組みとなっている。2018年1月の講義では、自分の研究分野であり福井の主力産業でもある繊維産業をテーマとして、製品開発部長をお招きして自社開発に取り組んだ経緯や苦労した点などをお話し頂き、「繊維王国・福井」についても学ぶ取り組みを行った。
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ (2) 2年生担当</p>
<p>② 内容・ねらい 企業のアニュアルレポート (英文) を用いて、モノづくりに関わる英語を日本語に訳して輪読しながら、補助資料による補足説明や、そのテーマに関する議論なども交えて、モノづくりを行う企業の経営について学んでいく。多読よりもむしろ精読に重点を置き、中学や高校で学んできた英文法などについても復習を行いつつ、英文を正確に理解する力をつけることを目標とする。テクニカルタームについてきちんとおさえながら、モノづくりを通じた企業経営に関する知識を高めていく。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校レベルの英語の知識についてもきちんと復習を行い、文法的な説明も行うことで、英文を正確に読み・書くという能力を高めるようにしている。これは、受講生が経営に関する知識を持ち、それに関わる英文を読み、書くという能力の土台作りとなり、将来的に海外とのビジネス・コミュニケーションにおいて、英語の書面や電子メールでのやりとり行えるようにすることにつながる、という意味も持っている。 2. テキストは、トヨタ自動車株式会社のアニュアルレポートを使用している。同社は学生にとって身近な企業であることから理解しやすく、企業経営全般の知識を高めることにつながるかと考えるからである。企業経営に関わるテクニカルタームについては、その内容もきちんと説明し、今後の専門科目の履修に役立つようにしている。 3. 初回と最終回に関連する内容のビデオを放映し、企業活動のグローバル化をイメージ出来るようにすることで、学習への動機付けを行っている。 4. 毎回、必ず全員にあてるようにしており、また、どこが誰にあたるかも予告していない。受講生は予習をきちんと行っておかないと、質問に答えられないようにして、学習への緊張感を高めるとともに、授業に積極的に参加するようにさせている。 5. 前回学習した内容については、翌週に小テストを行い、英単語及び英文和訳をさせることによって、受講生がきちんと復習することを促している。 6. 最終レポートは、半年間のまとめを英語で記述する方式にすることで、全体の復習と英作

文の能力を高めることに取り組んでいる。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅰ(2)3年生配当
② 内容・ねらい 前期は共通テキストを用いてモノづくりの基本的な仕組みを学ぶ。後期からは、自分自身の学問的関心に基づいてテーマを設定し、各自が調べてきた内容をゼミで報告し、議論をしていきながら、卒業論文の基礎となる部分を作り、演習Ⅱの卒業論文作成につなげていく。 ねらいの1つは、モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、また、それに関して議論を行うことによって、企業経営や経済の動向に関する知識を深めるとともに、論理的な思考や分析が出来るようになることである。もう1つは、卒業論文の作成に向けて準備を行っていくなかで、各自がテーマを設定し、資料を調べてまとめるなど、受動的な学習から脱却し、自らの問題意識に基づいて、物事を探求することができるようになることである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 前期では、受講生はテキストに基づいて報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告のなかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。なお、報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、必要に応じて再提出を求めて、ディスカッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。 2. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、現場改善につなげるための図表等を作成、改善案を提案させるということを行っている。現場作業の大変さや、工程設計の実態の理解、作業のムダを無くすことの重要性を理解させることにつなげている。 3. 後期には、卒業論文作成のための構想案作成および資料収集を行い、進捗状況を報告していく形を取る。卒業論文はあくまでも学術論文であるという位置づけから、単なる既存文献の知識をまとめただけではなく、必ず「新しい知見」の発見を求めている。そのためには、既存の研究成果をきちんとおさえたいうえで、その研究の学術的・社会的な意義や歴史的経緯を踏まえて取り組むよう指導している。具体的には、自分自身でテーマを決め、卒業論文の構想案を作成したうえで、半年間で複数回の報告を義務づけて、資料の作成・報告・ディスカッションを行っている。こうした作業を通じて、大学における「学び」の意味を理解し、また論理的な思考力を高めていけるようにしている。そのため、ゼミで使用する「学術論文の作成要領」を別途作成し、学術論文とはどういうものか、一般的な文章との違いは何かということから、具体的な記述方法、資料収集の方法などについても詳細に説明し、学生に配布するとともに、オフィスアワーなどを活用して別途指導を行うことでフォローを行っている。 4. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。 【2017年度・企業訪問実施企業】 ・第一織物株式会社(坂井市丸岡町・2017年7月25日) ・トヨタ自動車株式会社・堤工場(愛知県豊田市・2017年8月4日) ・北陸技術交流テクノフェア2017(福井市・2017年10月26日) ・セーレン株式会社・TPF事業所(坂井市・2018年1月18日) 【2018年度・企業訪問実施企業】 ・株式会社松浦機械製作所(福井市・2018年7月24日) ・トヨタ自動車株式会社・堤工場(愛知県豊田市・2018年8月3日) ・北陸技術交流テクノフェア2018(福井市・2018年10月25日) ・日華化学株式会社・NICイノベーションセンター(福井市・2019年1月23日) 【2019年度・企業訪問実施企業】 ・大喜株式会社(坂井市丸岡町・2019年7月23日) ・トヨタ自動車株式会社・元町工場(愛知県豊田市・2019年8月5日) ・小林化工株式会社(あわら市・2020年1月22日)※参考 なお、訪問した福井県内企業には本学の卒業生・修了生が勤務しており、経営学の学習だけでなく就職に際しての心構えやアドバイスなどをもらうことができた。また、自分自

<p>身の研究・教育に関するネットワークを広げることにもつながった。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅱ(2)3年生配当</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>受講生は、「演習Ⅰ」で学んだ内容を基にして、各人が設定した卒業論文のテーマに沿った形で、論文の構想案(問題意識、目的と意義、課題、方法、章構成など)を作成し、必要な資料を収集して、ゼミにて報告を行う。そこでの議論を通じて問題意識を明確にしていく。これらを踏まえて、必要に応じて聞き取り調査なども行ったりしながら順次論文を作成し、ゼミでの報告・議論を通じて内容を詰めて、方向を明確にしていきながら、最終的に論文を仕上げる事が出来るようにする。ここでは、卒業論文の作成を通じて、論理的な思考能力を高めるとともに、そのことを文章としてどのようにしてまとめていくかという、文書作成能力についても高めていくことを目標としている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 「演習Ⅰ」のメンバーと一緒に、主に福井県内の製造業を対象とした工場見学を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。 卒業論文作成においては、必ず実際の企業への聞き取り調査を行うように指導している。これによって、講義で学んだ知識が企業経営の現場とどのようにつながっているかを、より深く知ることが出来るとともに、調査対象の選定、アポ取り、質問状の作成、手土産の手配、お礼状の作成、原稿の内容確認といった一連の手続きを行うなかで、社会人としてのマナーについても指導を行い、その学生が社会に出て行ったときに役立つようにしている。 聞き取り調査の実施にあたり、有意義な聞き取り調査となるように、また、先方の企業に迷惑をかけないように、「インタビュー調査の実施要項」を作成し受講生に配布している。これは、文書作成からビジネスマナーに至るまで詳細に説明しており、社会にでも役立つと考えている。 「学術論文としての卒業論文」という位置づけを明確にしており、論文の体裁や引用の方法、文章の記載方法などについて詳細に指導している。中身についても、先行研究のフォローや新しい知見の発見に重きを置いている。そのため、早めにテーマ設定を行い、通常のゼミの時間以外でも頻繁に個別指導を行うなどすることで、大学での学習の集大成としての卒業論文を、より良いものにするようにしている。 卒業論文報告会を実施し、卒業論文の内容についてパワーポイントで作成・説明をすることを通じて、プレゼンテーションの経験も積ませるようにしている。また、報告会にはゼミの後輩も参加し、次年度の参考になるようにしている。
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 地方創生推進事業 大学連携センター講義「福井で働くということ・工業経営論」</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>モノづくりの盛んな福井には、高い技術を基盤とした特長ある取り組みを行っている企業が多くあるが、製品の特性上から学生がそのことについてあまり知らないことが多い。福井の企業で働く県立大学卒業生・大学院修了生の方々にお話を伺うことで、学生にモノづくりに関心を持ってもらい、今後の学習の方向性や進路を決定するうえで参考にしてもらおうとともに、学生の地元定着促進と地域活性化につなげることを目的としている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義においては、文系・理系それぞれの学生が履修していたこともあり、どちらの学生にも理解しやすいように、福井のモノづくりの概要、雇用との関係、モノづくりと経営学、日本のモノづくりの強み、福井のモノづくり企業の紹介及びモノづくりに関するビデオ放映を行うことで、モノづくりの基礎知識と福井のモノづくりの特徴について、具体的な事例を多く挙げて説明を行った。 また、本学卒業生をゲストスピーカーでお招きして、それぞれの企業の概要および現在の仕事内容について紹介して頂いたうえで、出席している学生との質疑応答を通じて実際に

<p>お話をすることで、モノづくりの活動において自分たちがどのように関わっていくことが出来るのか、また、そのためにはこれから何を学ぶべきか、といったことを感じてもらうように心がけた。なおこちらの講義には、生産管理論演習のゼミ生も参加し、ゼミでの学習とリンクさせる形で知識を深めるようにしている。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 生産管理論・生産革新論 (2) 大学院修士課程 ※隔年開講 (奇数年度)</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978年、をテキストとし、それを受講生が分担して報告を行い(輪読)、あわせて報告者が、自らの学問的関心に基づいて、その内容に関わった「論点」をいくつか提起する。これを中心として議論を進めるという形を取る。</p> <p>現在、多方面で注目されているトヨタ生産方式について学び、これを素材とした議論を通じて、その具体的な内容に関する知識を高め、これをより深く理解すること、そして、モノづくりにおける競争力の中身について、生産技術(製造技術・製品技術)との関連から分析を行うことによって、日本のモノづくりの「強み」の源泉を考察し、これを多角的な視点から捉えることが出来るようになることが狙いである。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生には社会人が多く、実践的な取り組みについての関心が高いことから、トヨタ生産方式の知識をどのように応用することが出来るのかを意識して議論を行っていくことで、より実践的な知識として学べるようにしている。 2. 担当者がこれまで実際に見てきた企業における、トヨタ生産方式の導入の経験を織り交ぜて説明をすることで、教科書に載っている知識だけではない実際の現場の姿についても理解を深めてもらうようにしている。また、適切なビデオ教材も活用し、興味関心を高め理解を深めるように試みている。 3. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、標準作業組合せ票などの現場改善のための図表を作成、改善案を提案するというを行っている。これは現場作業の大変さや、作業のムダを無くすことの重要性を理解させることに非常に役立っている。 4. それぞれの受講生からも、受講生自身の経験から得られた知識などをなるべく提供してもらうようにすることで、双方向的な授業を行い、福井県における「モノづくり」の特徴と、今後の方策などについて議論を行うことで、受講生が授業に積極的に参加し、学習への意欲を高めるようにしている。 5. 授業での議論を通じて、学術的・体系的・論理的な思考方法についても触れ、受講者が高度な理論体系に基づく、経営実践への取り組みにつなげられるようにしている。 6. 受講者は先述のトヨタ自動車の工場見学に参加し、トヨタ生産方式の実践についても学ぶことで、より理解を深めることを行っている。 7. ゲスト講師として修了生をお招きし、ビジネススクールで学んだことを実践でどのように活かしているか、大学院での研究に臨むにあたっての準備や進め方などについて、講義をして頂いた。
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 生産管理論・生産革新論演習 大学院修士課程</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>各受講生が自分自身で設定した研究テーマについて各自で調査を行い、その内容の報告に基づいて議論を行い、進めていく形式としている。この演習での狙いは下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生産技術(製造技術・製品技術)を軸とした、モノづくりの競争力の具体的な中身と、それがどのようにして蓄積・発展してきたのか、それと関わって、関連する企業群がどのように関わり合ってきたのか、といったことについて、多角的な視点から分析・考察ができるようになること。 2. 上記のような考え方をモノづくり以外の分野で応用し、その適用可能性などについて分析・考察を行うこと。 3. 学術論文としての修士論文を執筆すること、あるいは、学術的な視点に基づいて分析・考

<p>察を行ったプロジェクト研究を遂行すること。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アカデミックな視点に基づく分析・考察となるように、常に教員およびゼミ生との間で議論を行い、議論を通じて事実に基づくための実践に取り組んでいる。 2. 文献調査とおもに実態調査を積極的に進めるよう指導することで、理論と実践とを結びつけて理解することを重視しており、ビジネススクールにおけるリカレント教育という位置づけを明確にしている。 3. モノづくりの考え方を他分野に応用しており、流通機能への展開、医療分野への展開なども行っている。 4. 修士論文口頭試問の主査及び副査を担当し、修士論文として適切な内容かどうかの評価を行っている。
(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名（単位数） 開講学校名 なし
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
④本学における業務との関連性
(3)その他の教育活動
<p>① 企業訪問</p> <p>企業訪問については、教育活動の項目に記載しているが、こうした活動については、本学発行の「FPU News」や新聞等を通じて取り上げてもらうように働きかけを行うことで、本学の活動を対外的にアピールし、大学そのものの広告宣伝につなげるとともに、本学学生の就職先開拓につながった。</p> <p>【記事掲載一覧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FPU News No.95・2017年（倉茂電工株式会社訪問） ・ FPU News No.97・2017年（第一織物株式会社訪問） ・ 福井新聞 2018年1月19日号（セーレン株式会社訪問） ・ FPU News No.99・2018年（セーレン株式会社訪問） <p>② 教養ゼミ「永平寺町学」のなかの第10・11講「永平寺町から世界へ—福井の繊維がつむぐアパレル産業—」において、訪問企業選定、下見、事前講義、当日の引率などを行った。</p> <p>訪問先：豊島繊維株式会社（永平寺町松岡石舟）</p> <p>学生の課外活動としては、女子バレーボール部の顧問を担当している。</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文
<ul style="list-style-type: none"> ・ 木野龍太郎「繊維産地における企業間分業を通じた染色加工技術形成—福井産地の事例より—」（「福井県立大学経済経営研究」編集委員会編『福井県立大学経済経営研究』第36号、福井県立大学経済学部、pp.27-44、2017年3月）
②著書
<ul style="list-style-type: none"> ・ 木野龍太郎「トヨタ生産方式とその発展」（井上秀次郎・安達房子編『企業と社会が見える経営学概論』大月書店、第9章、2019年）
③学会報告等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 木野龍太郎「繊維産地における企業間分業を通じた染色加工技術形成—福井産地の事例より—」工業経営研究学会第32回全国大会自由論題報告（2017年9月15日・愛知工業大学自由ヶ丘キャンパス） ・ 木野龍太郎「地域性を意識したモノづくり経営に関する考察試論—福井経営モデルの事例より—」工業経営研究学会第33回全国大会自由論題報告（2018年9月11日・追手門学院大学安威キャンパス）

④その他の公表実績 なし
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 <ul style="list-style-type: none"> 工業経営研究学会第31回全国大会・自由論第司会及びコメンテーター(2016年9月8日・福岡大学) 日本比較経営学会第42回全国大会・自由論題司会及びコメンテーター(2017年5月13日・福岡大学)
学会での役職など <ul style="list-style-type: none"> 日本経営学会誌編集委員(2018年度より任期4年間)
学会・分科会の開催運営 なし
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加 <ul style="list-style-type: none"> 経営学科の教員で構成される「福井経営モデル研究」プロジェクトに当初より参加している。
② その活動による成果 <ul style="list-style-type: none"> フクビ化学工業株式会社へのインタビュー調査(2017年2月21日)および調査記録作成 武生特殊鋼材株式会社へのインタビュー調査(2017年8月23日)および調査記録作成※編集作業中 経営史学会全国大会でのパネル報告(2017年10月21日) 福井県立大学地域経済研究所・福井経営モデル研究プロジェクト共催フォーラム(2018年10月26日・同企業交流室) <ul style="list-style-type: none"> 「京都企業経営の特徴と福井経営モデルとの比較」報告および企画・運営担当 第49回京都産業学研究会報告(2019年12月26日・龍谷大学深草キャンパス) <ul style="list-style-type: none"> 「『福井経営モデル』の検討と福井の繊維産業」報告
(4)外部資金・競争的資金獲得実績 なし
(5)特許出願 なし

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会 <ul style="list-style-type: none"> 福井県職業能力開発審議会委員(2018年10月12日より) 県内企業キャリアアップ応援奨励金モデル企業選定委員会委員(2019年12月12日より)
②国・地方公共団体等の調査受託等
③(公益性の強い)NPO・NGO法人への参加
④(兼業規程で業務と見なされる範囲内の)企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 <ul style="list-style-type: none"> 2017年前期公開講座・講師「ホンダにおける組織文化継承のマネジメント」(2017年7月14日) 福井県内5大学合同進学説明会・模擬講義「繊維王国・福井の実力を学ぶ」(2017年8月26日)
② 社会人・高校生向けの講座

<ul style="list-style-type: none"> 福井県繊維卸商協会主催・人材育成事業第五弾 若手・中堅会員向けセミナー講師「HONDA イズムとはーその原点と継承ー」（2017年2月16日） 5大学合同進学説明会・模擬講義（2017年8月26日）於：AOSSA 福井県立羽水高等学校・開放講義「繊維王国・福井の実力を学ぶ」（2018年7月13日） 福井県立美方高等学校・開放講義「繊維王国・福井の実力を学ぶ」（2019年7月10日）
<p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム「福井経営モデルの探求ー経営学の視点から地元企業を見直すー」 企画、講師依頼、準備、運営、経営報告を担当 第8回北陸地域政策研究フォーラム（2018年3月4日・AOSSA）
<p>(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 立命館大学福井県校友会・常任幹事

6. 大学の管理・運営

<p>(1)役職（副学長、部局長、学科長）</p> <p>なし</p>
<p>(2)委員会・チーム活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年度：入試制度検討委員、『経済経営研究』編集委員、「福井経営モデル」研究プロジェクト担当、地域経済研究所・兼任教員 2018年度：入試制度検討委員、『経済経営研究』編集委員、「福井経営モデル」研究プロジェクト担当、地域経済研究所・兼任教員 2017年度：入学試験企画推進委員、入試制度検討委員、「福井経営モデル」研究プロジェクト担当、地域経済研究所兼任教員
<p>(3)学内行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井県立勝山高等学校・入試説明会（2019年7月30日） 私立星稜高等学校・大学訪問（2018年10月22日） 新入生オリエンテーション合宿参加（2018年4月14日） 福井県立武生商業高等学校・入試説明会（2017年9月22日） 福井県立高志高等学校・入試説明会（2017年9月19日） オープンキャンパス・入試制度説明（2017年8月6日） 福井県立足羽高等学校・入試説明会（2017年7月13日） 福井県立若狭東高等学校・入試説明会（2017年7月12日）
<p>(4)その他、自発的活動など</p> <p>特になし</p>